

平成13年秋季特別展

# 弥生クロスロード

## 再考・信濃の農耕社会

### 平成13年10月6日(土)ー12月2日(日)

主催 大阪府立弥生文化博物館 / 文化庁 / 朝日新聞社 / 朝日放送  
後援 長野県教育委員会 / 財大阪21世紀協会 協賛 堺女子短期大学 / 財国際交流サービス

- 開催時間 / 午前10時～午後5時 入館は4時30分まで
- 休館日 / 毎週月曜日(但し10月8日(月)は開館、翌9日(火)は休館)
- 入館料 / 個人 一般600円(480円)・高生400円(320円)
- 小中学生・65歳以上・障害者手帳を持つ方は無料( )内は団体料金、20名以上
- 所在地 / 〒594-0083 和泉市池上町4-4-3
- 電話 / 0725-46-2162 FAX / 0725-46-2165
- 交通 / J日坂和線「信木山」駅下車徒歩7分 / 南海本線「松ノ浜」駅下車徒歩20分
- 駐車場 / 普通車80台、大型バス7台無料

C u l t u r e  
D i f f u s i o n  
i n t o t h e  
C e n t r a l  
M o u n t a i n s  
A n i n v e s t i g a t i o n  
o f t h e  
E a r l y  
F a r m i n g  
S o c i e t y  
i n  
S h i n a n o

### 考古学セミナー

● 場所 1階ホール  
● 時間 午後2時～4時(受付午後1時)

● 第1回 / 10月7日(日)

講師 長野県考古学委員 桐原 健

「弥生後期の信濃社会」

● 第3回 / 11月11日(日)

講師 松本市立博物館長 岩崎卓也

「信濃に王が現れる頃」

● 第4回 / 11月25日(日)

講師 館長 金関 知弘 / 学芸員

「信濃の弥生社会を再考する」

\*本館学芸員による展示解説 毎週日曜日と祝日(午前11時～特別展示室)

### 秋季特別展 体験学習

● 鉄のプレスレットと勾玉を作ります  
● 定員 / 各日30名 ● 材料費 / 700円(入館料別)

● 申込方法 / 往復はがきに「住所・氏名・連絡先電話番号・参加人数・希望日」を記入のうえ、博物館アクセスリール係へ(各10日前必着)

# 弥生クロスロード

再考・信濃の農耕社会

shinanano

周囲を高い山岳で囲まれた長野県。かつて信濃と呼ばれたこの地で独特の、そして意外なほど先進的な弥生文化が開花しました。これは山岳高地という地形的な特徴もさることながら、西日本と東日本の境、太平洋側と日本海側の中間地という地理的な条件も大きく影響しています。峠や河川を通じて「人」「物」「情報」が移動し、さまざまな地域と交流が行われたことによってそうした文化が生まれたと考えられます。しかもそうした様子は、「卑弥呼の時代」と呼ばれる時期に色濃く現れます。こうした視点から信濃の農耕社会について、さまざまな考古学資料をもとに再考証したいと思います。

## 主な展示品

- 朝鮮半島南部からもたらされた根塚遺跡の渦巻文装飾付鉄剣
- 最東の地で出土した柴宮遺跡と宮沢本村遺跡の銅鐸
- 信濃の弥生文化を特徴づける銅剣と鉄剣
- 種類豊富な青銅器と鉄器
- 信濃人の原像にせまる土偶形容器や土偶
- 王の出現を象徴する弘法山古墳や森将軍塚古墳の副葬品

重要文化財4点を含む  
出品総数約600点

〈背景写真〉  
信濃最大級の墳丘墓／木島平村・根塚遺跡



① 朝鮮半島南部からもたらされた渦巻文の付いた鉄剣／木島平村・根塚遺跡

## 1 王の首長

集団墓、墳丘墓、そして出現期古墳までを紹介。根塚遺跡墳丘墓の副葬品や信濃に多い鉄剣と銅剣は必見です。

鉄板を巻き上げて作ったプレスレット(鉄剣)と玉類／塩尻市・剣宮遺跡



② 青銅のプレスレット(銅剣)／長野市・篠ノ井遺跡群



③ 人面を飾った容器／塩尻市・下境沢遺跡

## 2 激動する文化圏

信濃を二分する文化圏と関東・東海地方に共通する文化的要素。信濃の「分断」と「融合」の背景を探ります。

## 3 信濃人の原像

人骨から推測される渡来系人の存在。人面の付いた土器や土偶などからも信濃の弥生人像に迫ります。

④ 東海地方との関係が深い銅鐸／塩尻市・柴宮遺跡



木製の盾とやじり／長野市・水内坐一元神社遺跡

## 4 信濃の弥生集落

種類豊富な青銅器、意外に数多い鉄器。そして大集落や環濠集落。信濃の弥生集落のイメージが変わります。

⑤ 最も東の地域でみつかった細形銅剣／戸倉町・前塚遺跡

